

2022（令和4）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1491600027	事業の開始年月日	平成23年11月1日
		指定年月日	平成23年11月1日
法人名	医療法人社団 愛友会		
事業所名	グループホームあいかわ		
所在地	(243-0303) 神奈川県愛甲郡愛川町中津2328		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和5年3月9日	評価結果 市町村受理日	令和5年6月1日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当グループホームでは、当たり前前の生活を自分らしく、安心して過ごせるホーム（家）を目指しております。ご利用者様の今までの人生を大切に、温かい心で寄り添えるパートナーになれるよう、また、健康で過ごせるよう小さな体調の変化を見逃さないよう、日々努めます。緑多い自然に囲まれ、散歩の道すがら、出会う地域の方達との会話。ご利用者様のこれからの人生の良きパートナーになれるよう務めています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和5年4月14日	評価機関 評価決定日	令和5年5月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、相鉄・小田急・JR相模線「海老名」駅西口または、小田急線「本厚木」駅近くの「厚木バスセンター」から神奈中バス乗車「春日台一丁目」下車、徒歩約10分、諏訪神社近くに立地しています。鉄筋造り3階建て建物の2,3階部分にあり、1階部分には同一法人運営の小規模多機能型居宅介護事業所を併設しています。

<優れている点>

管理者は、日々職員と顔を合わせる機会を持ち意見や要望等を聞くと共に、携帯電話で24時間対応で聞く機会を持ち、運営に活かしています。職員が働く意欲を持ち、安心して勤務が続けられるよう、職場の協力体制を築き、個々の能力や状況に応じた勤務調整、シフト作りを行っています。家族とも意見や要望等を聞く機会を持ち、携帯電話で24時間対応しています。事業所の運営母体は医療法人で事業所の往診医になっており、医療連携に優れ医療面で利用者は安心した生活を送ることが出来、家族の安心にも繋がっています。また、職員も安心して利用者の支援に努めています。管理者は自治会や地元のソフトバレー部の一員として活動し地域の人達と交流があり、地域と良好な関係を築いています。

<工夫点>

事業所はこれまで多くの看取りを行っています。職員は、ターミナルケアについて研修で学ぶと共に、看取りの際は、看護師からその都度、個々の利用者状況に合った実務的な看取りの研修指導を受け看取り支援を行っています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームあいかわ
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	入職時には必ず事業所理念を説明しており、玄関に掲示し、身近に理念を感じて実践に繋げるようにしています。	事業所理念「当たり前生活を自分らしく、安心して過ごせるホーム（家）を目指します」と共に、ケア理念・行動指針を玄関ホールに掲示し共有を図り、日々の支援を行っています。新人には入社時に説明し理解を得るようにしています。	理念は作成後10数年経過しており、地域環境や利用者ニーズ、事業所状況等の変化があります。地域密着型サービスの意義や役割を踏まえ、現状に合った理念を再構築し共有されることが期待されます。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍以前はどんど焼き、子供神輿、盆踊り等へ参加を実施していました。また散歩の時に出会った畑の方から野菜をいただくこともあり、日常的に交流しています。	コロナ禍で地域行事は中止となり、事業所行事への案内も中止しています。コロナ禍前は自治会の文化展やどんど焼きを始めとした各種行事やボランティアを通じて交流しており、現在は日常の散歩等で地域の人と挨拶を交わしたり、野菜や花を貰ったりし交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	今年はコロナ禍の影響で中止となりましたが毎年中学生の職場体験に協力しています。来年度は再開の予定です。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今年はコロナ禍により予定されていた会議は中止となっていますが、役場やご家族には2か月ごとの事業所報告書をお渡しし、行事や事故、入退去当施設の現状をご報告し、ご理解をいただいております。	コロナ禍で運営推進会議は書面開催とし、2ヶ月に1回定期的に開催していません。議事録はメンバーに直接届けたたり、郵送したりし、事業所の現況報告（入居者状況・レクリエーション・事故・ヒヤリハット・研修・課題等）をしています。手渡し時に意見等も聞いています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	平素も申請、報告、相談等頻繁に赴き、密な連携体制を築いています。今年度は町のアンケート調査事業に対面にて協力致しました。	愛川町役場の高齢介護課に管理者が直接出向き、各種書類提出や介護認定更新手続き、報告、相談等を行っています。隣接する地域包括支援センターにも随時訪問することで協力関係を築いています。ケースワーカーの来訪や介護相談員の受入れも行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	職員間でも互いの行動を注視し虐待のないケアの実施に努めています。しかし、玄関の施錠は安全のため行っております。	身体拘束適正化委員会、身体拘束排除の為の取り組みに関する研修を実施し、身体拘束等適正化の指針を整備しています。特にスピーチロックについて話し合い、注意を払っています。利用者のベッドや車いすからの「ずり落ち防止策」について身体拘束にならない対応の仕方を職員間で協議し支援しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人研修や事業所研修等でも重要視し、繰り返し研修に取り組んでいます。言葉遣いや接遇にも注意し、問題があれば注意喚起をしています。	高齢者虐待防止に関する研修で虐待と不適切ケアや不適切ケアの防止、虐待防止の基本等を動画視聴で学んでいます。声掛けや言い方の工夫に注意し支援しています。管理者は職員の悩みやストレス解消に向けて、職員の家庭や勤務状況、体力的な面に注意を払っています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在成年後見制度を利用しているご利用者様もいらっしゃいます。また町で開催されている研修・講演会への参加も実施いたしました。今後も活用できるように支援していきたいと思っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入退去の際は利用者様やご家族様に十分な説明を行い、ご理解・ご納得をいただいたうえでご利用開始を心掛けています。また質問等は随時受け付けており、いつでも不安点が解消できるよう努めています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	様々な意見を気軽に伝えるよう玄関に意見箱を設置しています。また電話や口頭にて得られた意見や要望に対し、管理者・職員ともに情報を共有し、運営に反映するようにしています。	コロナ禍前は家族の面会時に意見や要望を聞いています。現在は新型コロナ対策緩和を受け、面会は玄関前で短時間としています。また、管理者は携帯番号を家族に知らせ24時間対応で意見や要望を受けようとしています。意見や要望には迅速な対応を心掛けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	法人では職員専用の意見箱を設置し、職員の意見や要望を聞く機会を設けています。また意見箱には鍵をかけ、法人本部でしか開封できないように配慮しています。	管理者は日々職員と顔を合わせる機会を持ち、意見や要望、提案等を聞くようにし、事業所運営に活かしています。また、管理者の携帯電話番号を職員に知らせ、24時間対応で意見や要望等を受けるようにしています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人では職員専用の意見箱を設置し、職員の意見や要望を聞く機会を設けています。また意見箱には鍵をかけ、法人本部でしか開封できないように配慮しています。	評価票に基づき人事考課を実施しています。管理者は、職員が安心して勤務が続けられるよう、個々の状況に応じた勤務調整、シフト作りを行っています。職員休憩室等を設置し就業環境を整備しています。毎月、法人本部の総務担当が来所し事業所状況を把握しています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	管理者は必要に応じて個人面談を実施する等状況把握に努めています。	年間研修計画に基づき研修（eラーニング）を実施し、動画の視聴で知識や技術の向上に努めています。未受講者には研修資料を配布しています。資格支援制度があり、資格取得者には手当が出ます。新入職員にはベテラン職員が付き、経験に応じたOJT研修で育成しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	代表者会議等に参加し、同業者との交流する機会を確保しています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービスの利用を開始する段階で、ご家族様やご本人より情報を得て、職員間でアセスメント情報を把握し、ご本人が安心して暮らしていけるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご自宅での様子や困りごと、不安、要望等を聞き、信頼関係を築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	初期対応においてはご本人とご家族双方から話を聞き違いを把握し、「その時」必要なサービスを模索しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	各々部屋の整頓や掃除等役割を担いながら家で暮らしているような家庭的な雰囲気作りに努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	身の回り品の買い出しや受診、本人希望時の面会等、その時々本人に必要な対応をともに担い、支えています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	感染対策に十分配慮しながら、知人や家族との面会をしています。今後の感染状況によってはご家族とも相談の上外出が再開できるようにしたいです。	コロナ禍で面会は中止しています。以前は本人の住んでいた近所の人やバードゴルフの仲間などの面会があり、居室で過ごしたり、リビングで皆で過ごしたりしています。また、家族と外出や外食、馴染みの理容院や法事、墓参り等に出かけています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個々の特性や症状、相性等を考慮して席の配置等を工夫しています。ご利用者様、スタッフが関わりあえる距離感を大切にしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	終了後もご家族や次施設、病院等に現状確認を行っています。また契約終了後もその後の経過等をお話しに来訪していただくことも多いです。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活において会話や行動等に気を配り、ご本人の内にある「思い」とくみ取れるよう日々努めています。	アセスメントの際や日常会話を通して把握しています。入浴時や散歩、夜間職員が一人の時など、職員と1対1の会話で把握しています。意思疎通の困難な利用者では態度や表情の観察、笑顔で汲み取るようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人やご家族様より聞き取りを行い情報収集に努めています。また得られた情報はスタッフ間で共有し、日々のケアに活かすようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々の心身状態や能力等について各スタッフが気が付いたことや対応について、常に報告し合い、状態把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	一か月に一度はケアカンファレンスを開催し、スタッフ間で意見を出し合い、情報共有に努めています。ご家族やご本人等の意見も反映させ、現状に即した介護計画書を作成しています。	通常、モニタリングは半年ごとに行い、ケアプランの見直しをしています。利用者によって、心身の変化に応じてその都度見直しをしています。見直しの際は、職員や計画担当、管理者のチームで行っています。ケアプランは本人や家族の意見、医療情報を反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録に水分・食事・排泄・服薬・生活の様子等を記録し、現状の把握に努めています。また、申し送りノートやケアカンファレンス会議等で情報を共有しながら柔軟な対応を心掛けています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	外部受診等、ご家族が対応できないとき等は当方にて対応していますまたその時々に応じて職員間で情報を共有し、柔軟な支援に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	役場にも頻回に来庁し、新しい取り組み等があれば利用していきます。また地域の方々や、ボランティアの来訪等ご利用者様が暮らしを楽しむことができるよう支援しています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	当施設の運営は医療法人となっているため定期的な往診・一般検査・訪問看護・訪問歯科を実施しています。また専門外の受診には外部受診にて対応しています。	内科医の訪問診療が週1回あり、法人代表の院長が来訪することもあります。歯科医は週1回来訪しています。皮膚科、耳鼻科などは外来で原則家族対応としています。訪問看護は週1回で、24時間オンコール体制です。年1回利用者全員の一般検診を外部で受診しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	体調面や変化等日常的な関わりの中で得た情報をスタッフが把握し、相談し共有しています。また褥瘡予防の方法や安全な体位変換等の指導をいただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中にご家族や病院担当者と連絡を密に取り、現況の把握に努めています。病状によっては担当者・家族と相談の機会を設け、今後の対応等について検討しています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時に重度化した場合や終末期に向けた方針や事業所として対応ができることについて説明をし、共有しています。状況変化に応じてご家族様の気持ちが変わることもあるので、都度状況を説明し、対応を検討しています。	重度化した場合の指針があり、契約時に説明し同意を得ています。開設来ターミナルケアを行っています。看取りの際は再度家族と看取りの確認書を交わし、行います。職員はターミナルケアの研修や事例の振り返りを行い、今後に備えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時連絡先や避難経路の掲示をしています。また消防署点検や警報器点検のタイミングで火事や地震を想定した避難方法の確認・シュミレーション等を行っています。また急変時の対応についてチャート記載し、冷静に対応できるようにしています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練は年に2回実施していますが、様々な場面を想定しての訓練は不十分かと思います。	日中の避難訓練を実施しています。備蓄は食料や飲料水は3日分確保しています。ローソクやブルーシート、懐中電灯などの装備品も備え、リストを作成しています。近くの独身寮とは非常時を想定して交流の機会を作っています。	防災訓練は夜間想定訓練を含め年2回の実施と防災用品のリストは職員等、常に誰でも判るところに掲示しておくことが期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	事業所理念、ケア理念、職員行動指針を掲示し、出退勤時に確認ができるようにしています。	プライバシー保護や接遇の研修を実施しています。日常のケアでは特に入浴時や排泄時の接遇に気を付けています。ドアやカーテンの開閉、声掛けの工夫などに注意をしています。居室に入る際はノックと声掛けを励行し、個人ファイルは施錠管理をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	積極的に声掛けを行い、本人の意思を反映できるように努めています。また日常生活において行動にも注視し、声にならない思いもくみ取れるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個々の特性やペースを優先し、柔軟な対応を心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご自分で洋服を選んでいただいています。また好みに合わせた服を持ち込んでいただいています。訪問カットの際は美容師さんとご本人で相談して髪型を決めていただいています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	野菜の下処理やお茶の準備、配膳等各ご利用者様ができる範囲で職員と一緒にしています。また施設内で調理し、音や香り等五感を刺激し、食への興味を引き出しています。	食材やメニューは外部に委託していません。食事は利用者の形態に合わせて職員が調理しています。季節の行事食の楽しみがあります。外食はコロナ禍で自粛しています。オーナーや近所から野菜の提供があり、新鮮な季節の野菜は食卓で味わう楽しみがあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食材・献立は外部に発注し、栄養バランスのとれた食事が提供できるようにしています。また嚥下や口腔状態に応じて刻み食やトロミ等の対応を心掛けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後個々に応じた口腔ケアを実施しています。月4回の訪問歯科の際に助言・相談・指導を受けています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努めています。適切なタイミングで声掛けを行い、自立に向けた支援を行っています。	基本は排泄パターンの把握でトイレ誘導をしています。入居時におむつ使用の利用者が、日頃のケアで自立した例、夜間のみオムツを使用し日中は不要になった例など改善した利用者が数名います。失禁者にはさり気ない声掛けで居室に案内し対応しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努めています。排便がなければ歩行により腸の運動を促進したり、医師からの処方下剤を適用する等し、便秘予防に取り組んでいます。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴は楽しみにしているご利用者様が多いため個別に対応しています。緊急時でも対応ができるよう時間帯は決めさせていただいています。入浴剤や湯温等はできるだけご希望に添えるよう支援しています。	入浴は週2回です。利用者の時間の変更希望などは対応しています。湯は都度取り換え、衛生的で快適な入浴を提供しています。入浴の嫌いな人は、声掛けの工夫や相性の良い人が促すなどし、無理強いしない支援に努めています。柚子は近所から沢山の提供がありゆず湯を楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々の生活習慣や状況に応じて過ごしていただくよう個室とフロアを自由に行き来し過ごしていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬や薬局でセットされたものを用いています。職員間で服薬情報を共有しています。服薬時は職員2人によるダブルチェックを実施しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	食事の準備や掃除等個々の能力を活かした役割を担っていただいています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ご利用者全員を対象とし、基本的には毎日外気浴を実施しています。庭の花を見たり、音楽を聞いたりしています。コロナ禍以前はお祭りやどんど焼き等町のイベントにも参加していました。	コロナ禍前は中華や回転寿司など外食を兼ね外出しています。今年は桜見物をドライブでしています。コロナ禍収束後は地域の盆踊りや文化祭、公園など外出の復活を予定しています。ホームの庭には花壇や、外気浴を楽しむことが出来るようにベンチを設置しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在コロナ対応により外出は制限中となっています。ご本人が希望する品はご家族にお願いをして購入してもらっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話や手紙のやりとりは、ご利用者の希望に沿って支援しています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用部分には季節ごとに制作レクの作品や行事写真等を飾っています。また温度管理や定期的換気等も実施しています。ご本人の特性や相性等も考慮し、席位置を決めています。	食堂兼リビングは明るく、清掃が行き届き、空気清浄器などを備えています。イス、テーブル、ソファ、テレビがゆったりと配置され、居心地のよい共用空間です。桜の貼り絵や鯉のぼりの作品を飾り季節感があります。利用者は掲示してある季節行事の思い出の写真を楽しんでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ご本人の特性や相性等も考慮し、席位置を決めています。またソファを設置し、自席以外で過ごせる場所も提供しています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自室には使い慣れたテレビや机、衣装ケース、ラジオ、仏壇等をご自由に持ち込んでいただいています。	事業所は予め、エアコンやクローゼット、ベッド、照明、カーテンを備えています。利用者はテレビや時計、写真、CDカセットラジオ、本棚など馴染みの家具や調度品を揃え、居心地よく過ごせる居室となっています。居室担当が身の回りの整理、清掃などしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	室内はすべてバリアフリーとしています。また必要があれば自室の入口に写真や名前を貼って分かりやすくする等の対応を心掛けています。		

事業所名	グループホームあいかわ
ユニット名	3階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	入職時には必ず事業所理念を説明しており、玄関に掲示し、身近に理念を感じて実践に繋げるようにしています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍以前はどんど焼き、子供神輿、盆踊り等へ参加を実施していました。また散歩の時に出会った畑の方から野菜をいただくこともあり、日常的に交流しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	今年はコロナ禍の影響で中止となりましたが毎年中学生の職場体験に協力しています。来年度は再開の予定です。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今年はコロナ禍により予定されていた会議は中止となっていますが、役場やご家族には2か月ごとの事業所報告書をお渡しし、行事や事故、入退去当施設の現状をご報告し、ご理解をいただいております。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	平素も申請、報告、相談等頻繁に赴き、密な連携体制を築いています。今年度は町のアンケート調査事業に対面にて協力致しました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	職員間でも互いの行動を注視し虐待のないケアの実施に努めています。しかし、玄関の施錠は安全のため行っております。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人研修や事業所研修等でも重要視し、繰り返し研修に取り組んでいます。言葉遣いや接遇にも注意し、問題があれば注意喚起をしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在成年後見制度を利用しているご利用者様もいらっしゃいます。また町で開催されている研修・講演会への参加も実施いたしました。今後も活用できるように支援していきたいと思っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入退去の際は利用者様やご家族様に十分な説明を行い、ご理解・ご納得をされたうえでのご利用開始を心掛けています。また質問等は随時受け付けており、いつでも不安点が解消できるよう努めています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	様々な意見を気軽に出せるよう玄関に意見箱を設置しています。また電話や口頭にて得られた意見や要望に対し、管理者・職員ともに情報を共有し、運営に反映するようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	法人では職員専用の意見箱を設置し、職員の意見や要望を聞く機会を設けています。また意見箱には鍵をかけ、法人本部でしか開封できないように配慮しています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人では職員専用の意見箱を設置し、職員の意見や要望を聞く機会を設けています。また意見箱には鍵をかけ、法人本部でしか開封できないように配慮しています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	管理者は必要に応じて個人面談を実施する等状況把握に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	代表者会議等に参加し、同業者との交流する機会を確保しています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に楽しく本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービスの利用を開始する段階で、ご家族様やご本人より情報を得て、職員間でアセスメント情報を把握し、ご本人が安心して暮らしていけるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご自宅での様子や困りごと、不安、要望等を聞き、信頼関係を築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	初期対応においてはご本人とご家族双方から話を聞き違いを把握し、「その時」必要なサービスを模索しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	各々部屋の整頓や掃除等役割を担いながら家で暮らしているような家庭的な雰囲気作りに努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	身の回り品の買い出しや受診、本人希望時の面会等、その時々本人に必要な対応をともに担い、支えています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	感染対策に十分配慮しながら、知人や家族との面会をしています。今後の感染状況によってはご家族とも相談の上外出が再開できるようにしたいです。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個々の特性や症状、相性等を考慮して席の配置等を工夫しています。ご利用者様、スタッフが関わりあえる距離感を大切にしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	終了後もご家族や次施設、病院等に現状確認を行っています。また契約終了後もその後の経過等をお話しに来訪していただくことも多いです。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活において会話や行動等に気を配り、ご本人の内にある「思い」とくみ取れるよう日々努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人やご家族様より聞き取りを行い情報収集に努めています。また得られた情報はスタッフ間で共有し、日々のケアに活かすようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々の心身状態や能力等について各スタッフが気が付いたことや対応について、常に報告し合い、状態把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	一か月に一度はケアカンファレンスを開催し、スタッフ間で意見を出し合い、情報共有に努めています。ご家族やご本人等の意見も反映させ、現状に即した介護計画書を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録に水分・食事・排泄・服薬・生活の様子等を記録し、現状の把握に努めています。また、申し送りノートやケアカンファレンス会議等で情報を共有しながら柔軟な対応を心掛けています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	外部受診等、ご家族が対応できないとき等は当方にて対応していますまたその時々に応じて職員間で情報を共有し、柔軟な支援に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	役場にも頻回に来庁し、新しい取り組み等があれば利用していきます。また地域の方々や、ボランティアの来訪等ご利用者様が暮らしを楽しむことができるよう支援しています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	当施設の運営は医療法人となっているため定期的な往診・一般検査・訪問看護・訪問歯科を実施しています。また専門外の受診には外部受診にて対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	体調面や変化等日常的な関わりの中で得た情報をスタッフが把握し、相談し共有しています。また褥瘡予防の方法や安全な体位変換等の指導をいただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中にご家族や病院担当者と連絡を密に取り、現況の把握に努めています。病状によっては担当者・家族と相談の機会を設け、今後の対応等について検討しています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時に重度化した場合や終末期に向けた方針や事業所として対応ができることについて説明をし、共有しています。状況変化に応じてご家族様の気持ちが変わることもあるので、都度状況を説明し、対応を検討しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時連絡先や避難経路の掲示をしています。また消防署点検や警報器点検のタイミングで火事や地震を想定した避難方法の確認・シュミレーション等を行っています。また急変時の対応についてチャート記載し、冷静に対応できるようにしています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練は年に2回実施していますが、様々な場面を想定しての訓練は不十分かと思います。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	事業所理念、ケア理念、職員行動指針を掲示し、出退勤時に確認ができるようにしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	積極的に声掛けを行い、本人の意思を反映できるように努めています。また日常生活において行動にも注視し、声にならない思いもくみ取れるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個々の特性やペースを優先し、柔軟な対応を心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご自分で洋服を選んでいただいています。また好みに合わせた服を持ち込んでいただいています。訪問カットの際は美容師さんとご本人で相談して髪型を決めていただいています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	野菜の下処理やお茶の準備、配膳等各ご利用者様ができる範囲で職員と一緒にしています。また施設内で調理し、音や香り等五感を刺激し、食への興味を引き出しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食材・献立は外部に発注し、栄養バランスのとれた食事が提供できるようにしています。また嚥下や口腔状態に応じて刻み食やトロミ等の対応を心掛けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後個々に応じた口腔ケアを実施しています。月4回の訪問歯科の際に助言・相談・指導を受けています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努めています。適切なタイミングで声掛けを行い、自立に向けた支援を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努めています。排便がなければ歩行により腸の運動を促進したり、医師からの処方の下剤を適用する等し、便秘予防に取り組んでいます。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴は楽しみにしているご利用者様が多いため個別に対応しています。緊急時でも対応ができるよう時間帯は決めさせていただいています。入浴剤や湯温等はできるだけご希望に添えるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々の生活習慣や状況に応じて過ごしていただくよう個室とフロアを自由に行き来し過ごしていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬や薬局でセットされたものを用いています。職員間で服薬情報を共有しています。服薬時は職員2人によるダブルチェックを実施しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	食事の準備や掃除等個々の能力を活かした役割を担っていただいています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ご利用者全員を対象とし、基本的には毎日外気浴を実施しています。庭の花を見たり、音楽を聞いたりしています。コロナ禍以前はお祭りやどんど焼き等町のイベントにも参加していました。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在コロナ対応により外出は制限中となっています。ご本人が希望する品はご家族にお願いをして購入してもらっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話や手紙のやりとりは、ご利用者の希望に沿って支援しています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用部分には季節ごとに制作レクの作品や行事写真等を飾っています。また温度管理や定期的換気等も実施しています。ご本人の特性や相性等も考慮し、席位置を決めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ご本人の特性や相性等も考慮し、席位置を決めています。またソファを設置し、自席以外で過ごせる場所も提供しています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自室には使い慣れたテレビや机、衣装ケース、ラジオ、仏壇等をご自由に持ち込んでいただいています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	室内はすべてバリアフリーとしています。また必要があれば自室の入口に写真や名前を貼って分かりやすくする等の対応を心掛けています。		

2022年度

事業所名 グループホームあいかわ
 作成日： 2023年 6月 1日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		理念は作成後10数年経過しており、地域環境や利用者ニーズ、事業所状況等の変化があります。地域密着型サービスの意義や役割を踏まえ、現状に合った理念を再構築し共有されることが期待されます。	理念の再構築と見直し	法人での管理となるため、担当部署へ再構築の提案を行う。	12ヶ月
2		防災訓練は夜間想定訓練を含め年2回の実施と防災用品のリストは職員等、常に誰でも判るところに掲示しておくことが期待されます。	夜間想定避難訓練の実施と年2回の防災訓練の実施を目指す。防災用品のリストの掲示をする。	夜間訓練として、近隣在住のスタッフへ応援要請の電話をかけて、何人応答できるかを確認をする。防災備品リストを各階に掲示する。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月